【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	香川

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	高松市立亀阜小学校								
学　年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	4	3	4	3	6	27	48
児童数	132	118	151	115	156	121	18	811	

Ⅱ　研究の概要

1．研究主題

分かる喜び，学ぶ楽しさを追求する学習活動の創造

――　確実に力をつける少人数授業の在り方を求めて　――

2．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

１～６年生算数　（子どもの理解度に差が出やすい教科であるため）

１～６年生国語　（これまでの研究成果から、実施学年・教科の枠を広げ、研究に取り組むため。）

３～６年生理科　（子ども自身の課題解決に対応するため）

(2)　年次ごとの計画

平成14年度

○　テーマ　**分かる喜び，学ぶ楽しさを追求する学習活動の創造**

――　子どもの課題意識が連続する学習活動の工夫と評価の在り方　――

○　仮説

①　『分かる』という喜びが必然的に友達との交流を求め、自分らしさや自分のよさにも気付いていく。その積み重ねで子どもたちは、できる自分に気付き、学ぶことの楽しさを感じていくことができると考える。

②　子どもたちみんなが見通しをもって学習に取り組んでいけたり，子どもたち自身が自分のよさや自分らしさに気付いたりできるような評価の方法も考えれば，子どもの学びの姿を見つめて伸ばすことができると考える。

○　研究の内容・方法

少人数指導（複数担任制）の工夫

①　個に応じた指導の工夫　・基礎基本を身に付けるために
・発展的に力を伸ばすために

②　課題意識が連続する評価の工夫　・自分の伸びに気付くために
・自分のよさに気付くために

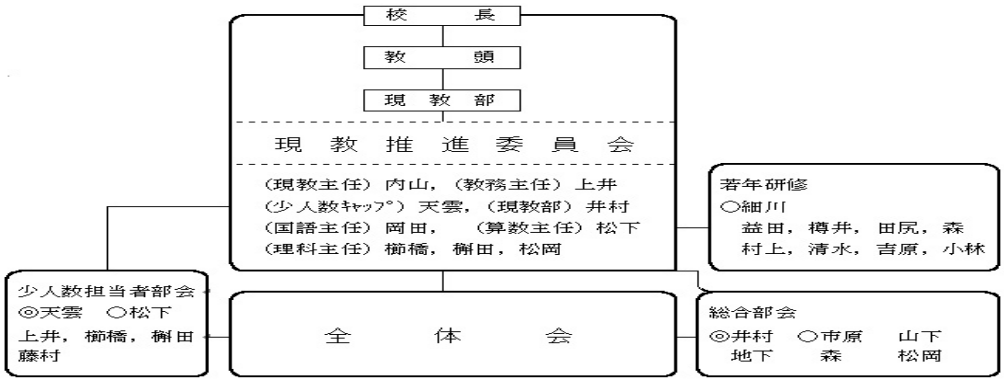
全員で少人数指導（複数担任制）の研究に取り組む。授業実践による研究とよりよい実践の公開を行うことで，教員全員の意識を少人数指導に集中させていく。

平成15年度	○　テーマ **分かる喜び，学ぶ楽しさを追求する学習活動の創造** ――　確実に力をつける少人数授業の在り方を求めて　―― ＊　昨年度の中間報告からサブテーマを変更したのは，「いきいきと交流するためには，一人一人の児童が「わかった」という達成感をもつことが前提になるからである。 ○　仮説 ①　課題別・方法別・習熟度別・興味関心別等の複数回のコース選択ができる**コース分けの工夫**をすることによって，基礎基本を身につけたり発展的に力を伸ばしたりして，**一人一人に力をつける**ことができると考える。 ②　自ら学び自ら考える力をつけたり自他のよさや伸びに気付いたりするために，児童が交流への必要感をもつための手だてを工夫することによって，**考えを高め合う交流**ができると考える。 ○　研究の内容・方法 ・　平成１４年度に作成した単元指導計画・評価規準の修正を図る。 ・　国語科においても実践する。 ・　授業改善のシステム化を図り，校内研究会を核として，コース分けや交流の考え方やその方法を担当学年の実践に活かす。

平成16年度	○　テーマ **分かる喜び，学ぶ楽しさを追求する学習活動の創造** ――　より個性化・個別化に対応する学習を求めて　―― ○　仮説 ①　自己評価や達成度の数値化をもとに指導の分析を行えば，補充・発展に配慮したより個性化・個別化に対応するコース分けの工夫や指導過程の改善を図れると考える。 ②　コース内やコース間で一人一人の交流を位置づける等，交流の在り方を工夫することによって課題意識が連続し，考えを高め合うとともに，子ども一人一人が自分の伸びを確認でき，学習への意欲がより一層増していくと考える。 ○　研究の内容・方法 全員が研究授業や公開授業を行い，少人数指導（複数担任制）の検証を行う。また，15年度に引き続き国語でも１～２単元の実践を続ける。

(3)　研究推進体制

○　組織図



○　研究の進め方

・　学年団研究において，昨年度作成した単元指導計画・評価基準の修正を図るとともに研究内容のデータベース化を図る。

・　授業改善のシステム化を図り，「検討会→事前授業→検討会→授業→討議→検討会」のサイクルの中で，他学年の研究授業を通して担当学年の授業研究を進める。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

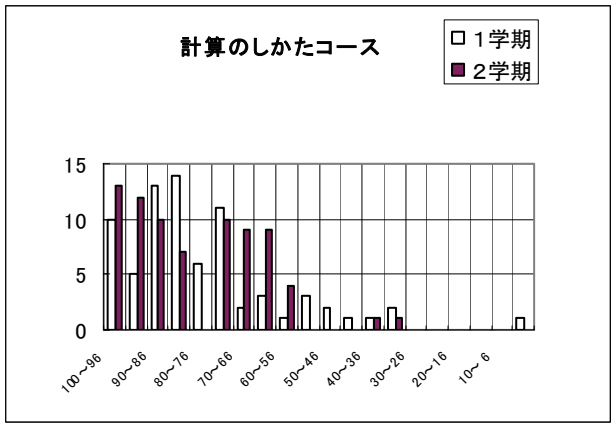
◎　単元指導計画の修正

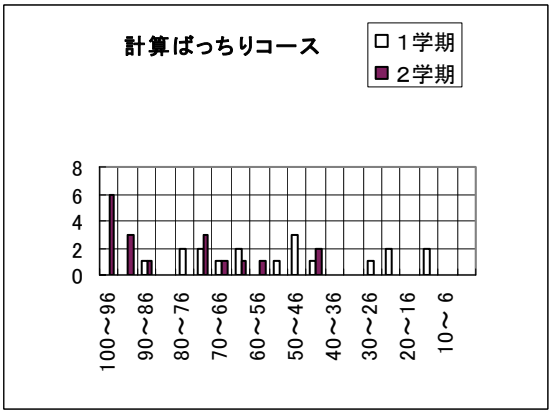
（1）個に応じたコース選択の工夫例；５年算数「小数のかけ算とわり算」

「小数のかけ算とわり算」の学習は２段階の指導が計画されており，１学期は１クラス２分割のコース設定にした。しかし，**能力差が大きい児童の実態から，**２学期は**２クラス３分割の習熟度別コース編成**とした。習熟度が上位層の「生活の中に広げようコース」や中位層の「計算のしかたを考えようコース」では３５名程度の集団になったが，低位の「計算ばっちりコース」は，２クラスで１２名程度になった．１学期単元「小数と整数」で使用した液量図・テープ図・数直線・位取りの枠等を使用して，小数のしくみを繰り返し指導した。また，毎時間５問程度のミニテストを授業の始めに位置づけ，ドリル練習を徹底した。授業中も練習プリントを使って，少ない問題数ではあるが，必ず正解するまで個別に指導した。位を揃えて書いたり小さな文字を書いたりすることが困難な児童もいるので，練習プリントやテストプリントをＡ３版にしたり位を揃えるための補助線を入れる等の配慮をした。

【学習内容の定着】

１学期実施の「小数のかけ算・わり算（１）」と２学期に実施した「小数のかけ算・わり算（２）」の県版テストから「表現処理」の問題を取り出して，達成度を比較すると，学年全体で４％伸びていた。習熟度別に見ると（下図），下位層の得点が大幅に上がっている。





自己評価カードに「わかった。」「できた。」「おもしろい。」という感想が多く書かれ，連絡帳にも「このごろ算数が楽しいと言っている。」と，子どもの変容を喜ぶ保護者の声がみられるようになった。学級担任からも，「計算ばっちりコースの子どもが，学級のミニテストでも満点を取り，自信をつけている。」「他の生活場面でも，宿題を忘れずにしてきたり，授業中の発言が増えたりして意欲的になっている。」と，その変容が伝えられた。

数と計算領域において，能力差が大きい場合，習熟度別の少人数授業は効果的であるといえる。特に計算技能を高めるためには，個別指導が有効である。３つのコースともに，ねらいにあった成果が出た。

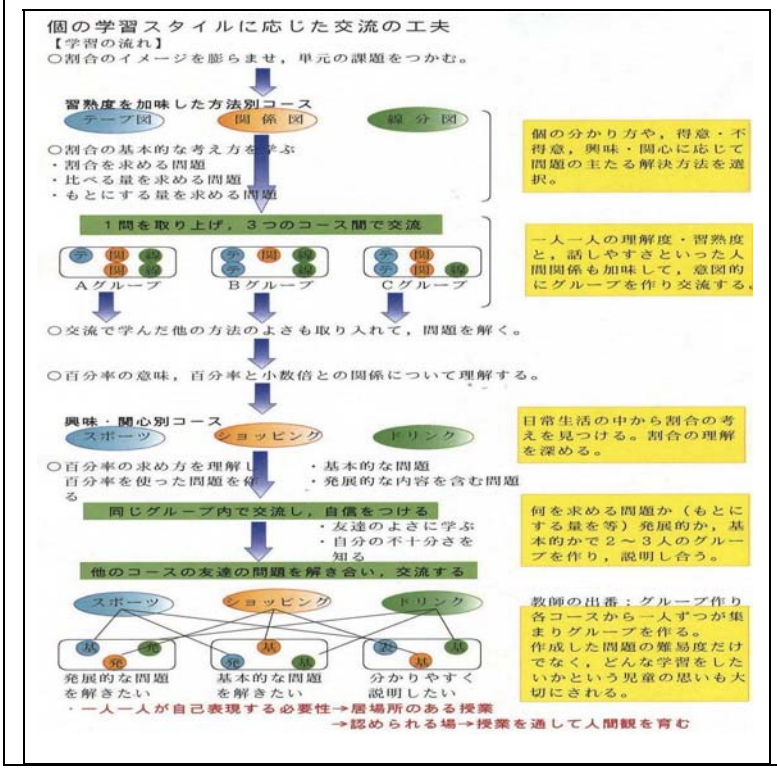
（2）考えを高め合う交流例①　順序選択により体験と交流を保障する工夫；４年理科「電気のはたらき」

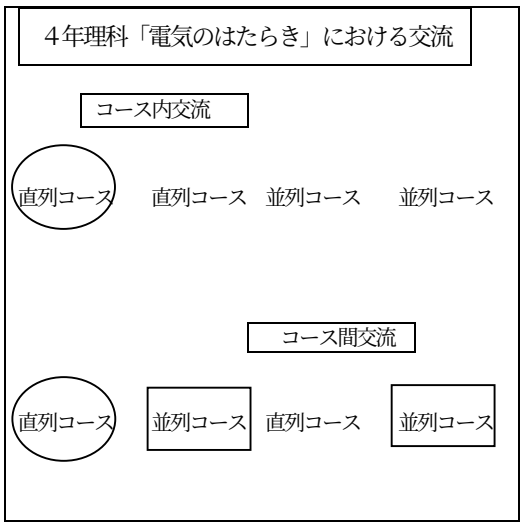
自己選択の結果，学習や実験に対する意欲が高まり，主体的に取り組んだ。コース内交流をしっかりすることで，自分の学習したことに自信を持つ児童が増え，コース間交流によって相手意識が育ち，互いの実験方法や結果の説明を聴こうとする意欲や態度も育ってきた。

考えを高め合う交流例②

一人一人が確実な力をつけ意欲を高めるコース間交流・

コース内交流の工夫；５年算数「割合」





方法別コース選択では，後で一人一人が責任を持って説明する場を設けていたため，自分の選択した図の描き方だけは必ず習得しようと意欲的に取り組んだ。また，コース内では交流することで学習の定着を図り，コース間交流では自分の考えに自信を持って図の描き方や解き方を相手に説明したり，また，納得するまで質問し合ったりすることができた。友達同士で教え合うことによって，それぞれの方法のよさを実感することができ，友達が作った問題を解くことで学習意欲を高めている。

どの子の願い（難しい問題を解きたい・説明のしかたを工夫したい・いろいろな問題を解きたい）にも応えるように，交流相手を組み合わせるのに時間がかかるが，児童から「難しいけれどおもしろかった。」との感想を得た。

◎　評価カードの改善と児童の意識の変容

学習内容の確認や学び方に対する助言を行うために次の４点について改善を図った。

※1**学習課題**の明示により，学習の見通しをもったり学習の流れをふり返ることができる。

※2本時の学習内容に関する**チェック問題**の明示により，達成度の自己点検を行う。

※3**感想**記入時の助言により，**感動した学習内容・学び方・次時の課題・疑問点**等を見つめる。

※4単元末に「**学習のふり返り**」を位置づけることにより，４観点からの**到達度**を自己評価するとともに，**学び方や学習の到達度，補充にかかわること，生活への活かし方**等を文章記述して自分の伸びを見つめる。

＜高学年の評価カード例＞

実践の結果，数学的な考え方について「おもしろい。」という感想が多くみられるようになったり，「ここがわからない。」と自分の疑問点を明らかにしたり，「ここがいけなかったんだなあ。もう少し練習しよう。」と間違いに気付く記述が見られるなど，感想の変容があった。これは学習意欲の向上とみることができる。また，アンケート結果からも自己評価カードの効果がうかがわれる。

単元（　　）自己評価カード　年　組　番（　　）

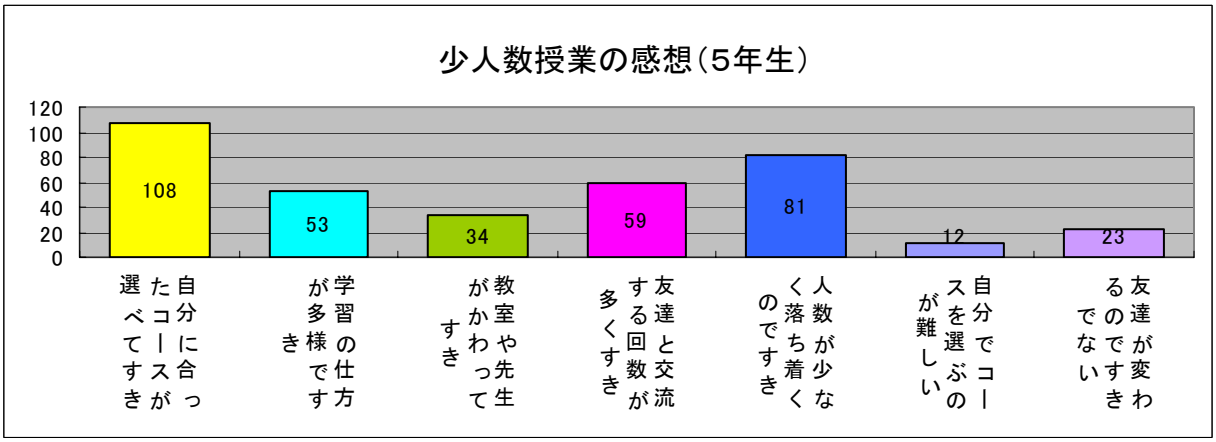
日付	課題（コース）	自己評価と感想	
	※1	※2	※3

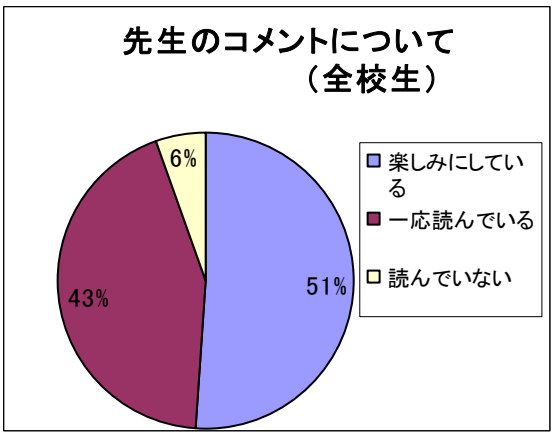
単元の目標

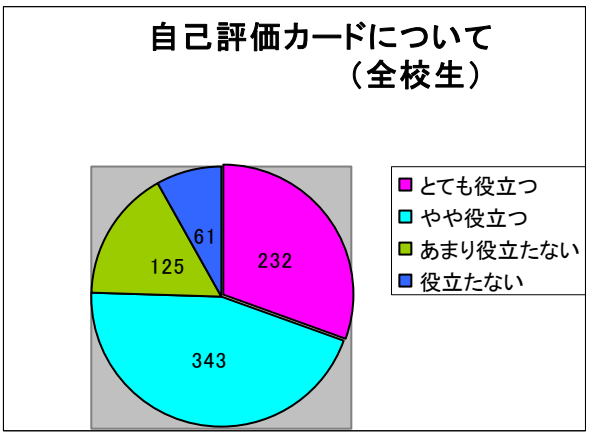
興味・関心	思考	表現・処理	知識・理解

学習のふり返り

※4







◎　**国語の実践**　・少人数指導実施単元　（説明文教材で「読む」ことに重点を置いた指導を実践）

1年	のりもののことをしらべよう	「いろいろな　ふね」
2年	どうぶつのひみつを　みんなでさぐろう	「ビーバーの大工事」
3年	「お祭り事てん」を作ろう	「つな引きのお祭り」
4年	環境を守るくふうをしょうかいしよう	「ウミガメのはまを守る」
5年	いろいろな方法で調べて伝えよう	「森林のおくりもの」
6年	「ロボットもの知り情報誌」を作ろう	「人間とロボット」

・実践結果から　自分の課題に合わせてコース選択することや読み取りのために必要不可欠なことばを意識することによって正確な読みができるようになった。筆者の述べ方を自分の表現に取り入れようとする児童の姿もみられ，「また国語の少人数学習をしたい。」と　「学習の振り返り」に書いた児童も多い。保護者からも意欲や表現力の点から子どもの変容を喜ぶ声が寄せられた。

2．今後の課題

・　成果を数値化し，単元ごとの指導の評価をもとにコース分けを中心とした単元指導計画の改善を図る。その際，改善の視点として発展と補充の焦点化が重要である。また，コース内やコース間で一人一人が説明する交流の場を位置づけ，自己有用感と学習意欲をいっそう高めることが重要である。
・　単元指導計画の改善を図るためには，教材教具の工夫等について，他校の同学年担当者と交流することが効果的ではないか。
・　少人数加配が現状のままでは，算数・理科と国語の少人数授業を両立させるために，単元組み替えの工夫が必要である。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

○　香川県が行う学力状況調査（年１回）・県版テスト（単元ごと）の結果分析
○　（校長会依頼）北海道標準テスト（年１回）
○　自己評価カードの記述
○　全単元評価規準の実践修正と変化・変容の分析
○　児童の意識アンケート調査

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○　校内研での授業公開
○　８／２９香川型指導体制研・２／１０東讃地区協議会でポスターセッション
○　県内外からの参観視察を通して，本校の取り組みの詳細や成果を広めていく。
○　学力状況調査結果や保護者の学校評価等のデータを亀阜小学校ホームページに掲載し，少人数指導の成果を広くアピールする。
○　学年団通信のうち，年2回を「少人数特集号」として取り組みの様子や成果を保護者に知らせ理解を深める。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　■　１４年度からの継続校
【学校規模】　■　２５学級以上
【指導体制】　■　少人数指導　■　Ｔ．Ｔによる指導
□　一部教科担任制　■　その他
【研究教科】　■　国語　■　算数　■　理科
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■　有